

12月20日（土）にやつしろハーモニーホールで行われた「定時制・通信制の灯を消すな！」第45回熊本県民集会に参加しました。熊本県内の公立の定時制・通信制高校の先生方と卒業生を中心とした実行委員会が主催する会で、県内の定時制高校のある地域を巡って行われています。

熊本県内の定時制・通信制高校で学んでいる生徒や卒業生の意見発表を中心とする会で、今回も八代市長や教育長を始め、議員の方や関係学校の管理職など多くの来賓の方々も見えておられました。熊解研にも来賓案内があり、花田会長が県人教の森山会長と並んで出席しました。

中心となるのは、定時制・通信制の在校生や卒業生が自分の学校生活や思いを報告するシンポジウムですが、ひとりひとりが自分のくらしや学んでいることをかざらずに語られる姿は、毎回教えられることの多いものです。

今回のシンポジウムでは、中国から来られた生徒さんの報告で語られた通信制高校での先生方の姿、自分でも中国語を勉強して、中国語で「お疲れ様」などと声をかけてくれる、そんな暖かな雰囲気にも励まされているという報告が心に残りました。

また、別の生徒さんからは、先生と生徒の距離が近く、相談しやすいという言葉もありました。働きながら通学している定時制高校の生徒さんは、職場の人が優しくて、学校に行くときには「いってらっしゃい」、「遅刻しないようにね」と送り出してくれるのがうれしいということも報告されました。

定時制・通信制高校への進学を選択した生徒さんたちへの、暖かい周囲の思いが伝わります。と同時に、これの人の温もりは、小・中・全日制の高校など全ての学びの場で大事にされなければならないものだと感じます。数値や成果だけで子どもたちを評価するのではなく、人の中で生きるぬくもりを実感できることが、学校の大きな役割なのだと思います。

一方で、最後に採択された集会文では、「最近では定時制通信制生徒を大学推薦入試や、企業求人予定数から除外する事案が生じています。どちらも除外理由は不明のままです。」という事例も語られ、定時制・通信制高校を取り巻く差別は確かにあるのだと教えられます。

閉会の言葉として語られた「生徒たちは理由があって定時制・通信制高校に来ている。自分の置かれた状況の中で、学びたいと思ってきている。『定・通の灯を消すな！』ということは、様々な状況の中で生きている子どもたち、大人たちの『学びの灯を消すな！』ということだ」という言葉を聞き、本当にそうだと思いました。